

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790300125		
法人名	合同会社 ゆい		
事業所名	グループホームかえで		
所在地	沖縄県うるま市兼箇段922番地		
自己評価作成日	平成30年1月19日	評価結果市町村受理日	平成30年 6月 6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JizyosyoCd=4790300125-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	平成 30年 2月 5日(月)		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・当施設は、様々な認知症の症状に、対応できるよう職員配置を、手厚くしています。 ・認知症に関する研修等も充実しており、職員がスキルアップできる体制が整っています。 ・施設の理念である、パーソンセンタードケアを徹底しており入居者中心のケアを提供しています。 ・食事3食手作り、またリビングには、テラスがあり、五感を感じられる環境である。 ・家庭菜園もあり、入居者と季節ごとに収穫し調理しています。 ・喀痰吸引等事業所登録施設で、看取りケアへも対応できる体制である。 ・地域での認知症啓発活動にも積極的に参加しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は住宅地の中にありながら自然を感じられる環境となっている。利用者を中心とした「パーソン・センタードケア」を理念とし、「驚かせない」、「急がせない」、「自尊心を傷つけない」の3つの「ない」を意識し、本人の望む暮らしが出来るよう支援している。</p> <p>食事は3食とも事業所で調理し、利用者と共に家庭菜園で育てた野菜を収穫し、食材として調理され提供している。また、近隣の方からの差し入れも使い調理している。日常的にドライブや近隣の散歩を楽しんだり、日に何度も自宅往復する方への環境を整えている。テーマパークへ遠出したり、外食、花見等、季節の行事以外にも、ファストフード、個別の買い物等、様々な屋外支援を取り入れている。</p> <p>地域の中に溶け込み夏祭りでは利用者と一緒に「かえで屋」を出店し屋台でかき氷を販売した。認知症の啓発活動にも積極的に参加している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・採用時は、職員へわかりやすく説明している ・ケア会議等で、理念の原点を振り返り、共有し実践に活かしている。 	<p>理念は開設時より継続し、職員会議や日々支援の中で指導したり実践を通して共有し、職員にも浸透している。特に3つの「ない」の中でも「自尊心を傷つけない」を心掛け日頃のケアを行っている。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所は、自治会に加入し、清掃や敬老会等に参加している。 ・また、頻回に散歩をしているので、地域の一員として交流できている。 	<p>事業所は地域の中に積極的に入って、清掃や地域の行事に参加している。夏祭りでは「かえで屋」を出店した。散歩の際にも近隣の方、商店の方と気軽に声を掛け合える関係となっている。認知症に関する啓発活動も行っている。ボランティア、高校の実習生を受け入れ交流している。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サポータ養成講座の開催 ・「認ともうるま」を立ち上げ、2か月に1回、市民や、介護従事者向けに認知症の講演会を開催している。 	/	/
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2か月に1回必ず開催している。 ・開催後は、開催報告書を行政へ提出している。 	<p>運営推進会議は利用者、家族、行政、自治会長等が参加し年6回開催している。事業所の様子や、ヒヤリハット、事故などの報告をしている。開催の通知は文書で行い、北酷暑も提出している。地域との連携の取りやすい社会福祉協議会職員の参加も望まれる。</p>	<p>運営推進会議員の中に、地域との連携が取りやすい社会福祉協議会職員等の参加にも期待したい。</p>
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村の認知症推進員との連携も取れており、困難ケースの受け入れなど積極的に行っている。 ・SOSネットワーク等で意見交換もできており、定期的に会議等を行っている。 	<p>市担当者とは推進会議や市のグループホーム連絡会、地域密着型サービスの集団指導等で情報交換を行っている。管理者が市の介護保険事業計画の策定委員、グループホーム連絡会の会長で市から講師の依頼をされるなど協力関係にある。</p>	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束排除マニュアルを作成 ・定期的な、研修へ職員を派遣している。 ・当施設は、日中玄関などの施錠は行っておらず、入居者が自由に入出入りできる環境である。 	<p>身体拘束排除マニュアルが完備され、身体拘束のないケアを実践している。入居前にリスク等も家族に説明している。職員には言葉による拘束についても十分理解できるよう、研修やミーティングを行い共有している。</p>	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者は認知症高齢者虐待廃止研修を終了している、ケア会議等で虐待の可能性がないか、(心理的虐待等)防止に努めている。 ・また、在宅からの利用者で、虐待の疑いがある際には、担当ケアマネへ連絡している。 	<p>管理者は認知症高齢者虐待廃止研修を終了し職員にも、虐待の可能性や、言葉の虐待などを実践の中で常に指導している。また、ケア会議などでも虐待防止にむけ話し合いをもっている。</p>	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・県グループホーム協会で定期的に権利擁護について研修会がある、 ・管理者は、権利擁護研修を修了している。 ・現在ご家族の希望で、後見人制度を活用している家族がいる。 		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・契約に際し、契約書及び重要事項説明書等で説明し同意を得ている、家族と事業所で2部作成している。 		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関先に、ご意見箱を設置している。 ・運営推進会議には、家族が参加しており活発な意見交換が行えている。 ※今年度は、家族への満足度アンケートを実施しておらず、次年度への課題とする。 	<p>利用者からは日ごろの会話の中から聞き出し、家族からの意見や要望は面会時や運営推進会議で意見交換している。また、相談クレーム窓口もあり、家族から意見を聞き出しやすくしている。部屋の掃除についての意見が出て改善されている。</p>	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・代表者は、職員会議へ出席し、現場の意見を聞く機会を設けている、また主任会議等で上がった提案や要望に対処している。	職員全体会議で職員の意見を聞いている。悩み相談窓口の担当があり、などに繋がった。適材適所での業務分担のため業務マニュアルの改善を行った。事業所は資格取得にも積極的である。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・出勤時間の調整や有休休暇の取得など、職員が働きやすい環境である。 ・夜勤等の時間も短くし、精神的に余裕が持てるようなシフト、職員配置である。	夜勤の時間を短くしたり、出勤時間を調整など、管理者に相談しやすい環境にある。職員配置を手厚くし、有給休暇も取得しやすく、夜勤の時間も短くし、余裕をもって働きやすい環境を作っている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・採用時には、必ず職員向けにサポーター養成講座を開催している、また個々の力量を把握し、職員にあった研修への派遣を行っている。(認知症実践者研修)等 ・介護職員基礎研修への希望があれば、勤務を調整し研修へ出れる環境である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・沖縄県GH協会へ加盟 ・うるま市「認ともうるま」への参加 ・他職種との交流も多く、研修等も充実している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面談で、本人、家族の方が気軽に話せる雰囲気づくりを心がけることで、本人家族との信頼関係を築けるよう努めています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学してもらい、雰囲気を体感してもらいます。その中で、他者と生活されている本人様をご覧になり安心感を持ってもらえるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様や家族様の要望を聞き、入所が困難な場合は、他機関と連携し必要な情報を提供し支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の生活歴を心に止め、その人らしさを活かして、過ごしていけるよう、他者と共に生活を支えあう関係を努めていきます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の本人を思いやる気持ちに寄り添って、共に共通の思い立場で、本人様を支えて行く関係を築けるよう配慮しています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様の交友関係をこれからも継続してもらい、社会生活から遠のこないよう支援に努めています。 (以前住んでいた地区への訪問、地域の敬老会の参加等)	馴染みの関係を継続するために自宅での行事には参加できるよう支援している。前職の関係者が面会に訪れたり、ドライブに懐かしい場所を通ったりしている。地域の敬老会に参加したり、馴染みの関係を継続できるようにしている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間の関係を把握し、孤立させないよう互いに関わり合えるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了になりましたも、これまでの関係を大切にして、必要に応じて、関係者に情報提供などして、本人様家族様の支えにお役に立つ様に努めて行きます		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思いや、生活の希望や意向を汲み取り、本人の意向に添えるように努めています。	思いや意向は、日常会話の中で把握し本人のやりたいことができるよう支援している。口頭で伝えたり、申し送りノートで職員が共有できるようにしている。外食をしたいとの希望から担当職員と一緒に外食に出掛け、本人の意向に沿えるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	聞き取り等で、足りない情報などは、他機関、家族さんから情報を頂き、経過の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人様や家族様の声から、出来る事、足りない事の把握に努めています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、家族様が思い描く、希望する生活の実現に近づけるように関係者とチーム組み現状に即した介護計画を作成しております。	担当者会議には利用者、家族も参加し、希望する生活が実現できるような介護計画となっている。毎月のカンファレンス、3か月毎のケアチェックを実施し定期や随時の見直しも行われている。モニタリングも月1回実施されているが介護計画に沿った記録方法が望まれる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・介護職への申し送りノートを活用し情報の共有を行っている、入居者の症状や発言等を詳細に記入し介護計画の実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・一時帰宅や外泊等の送迎を行い、ご家族また本人のニーズに対応している。 ・共用デイでは、朝食や夕食の提供など柔軟な支援が行えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域の資源を活かし、敬老会や各種イベント等へ入居者も参加し地域の中で生活を送れる環境である。 ・生活歴を活かし、地域の夏祭りへ参加し、かき氷を販売するなど、支援している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・受診等に行く際は、ホームでの状況を報告できるよう、情報提供書を作成している。 ・歩行困難や車椅子等の方の受診に関しては、送迎等のサービスを行い支援している。 ・当ホームでは、訪問診療と契約しており、必要に応じて、専門科との情報提供を行っている。	入居前からのかかりつけ医を継続している方と事業所協力医の訪問診療を利用している方がいる。定期受診時や他科外来時には情報提供書を作成し一人ひとりのニーズや状況に対応できるよう医療連携体制を築いている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・当施設は、看護師を非常勤で採用している、受診時や、訪問診療時は、入居者の詳細を提供し適切な医療が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時は、定期的に訪問し医療機関と情報の共有を行っている。また退院の際は、必ずカンファレンスに参加し、状態を把握しスムーズな受け入れができるよう支援している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入居の際に、重度化の指針等を説明し同意を得ている。 ・状態の悪化等で、必要と思われる際は、訪問診療及び訪問看護、看護師、等、他職種と家族でカンファレンスを持つようにしている。	「重度化や終末期における対応及び看取りケアに関する指針」が作成され、利用者や家族には入居時に説明している。看取りケアに対応できる医療連携体制が整い、スタッフも内外部の看取り研修等で学び、支援内容を理解している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急時の対応マニュアルの作成 ・救急救命・上級救命等へ職員を派遣し実践力を身に付けています。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・法定訓練は行っている、今年は火災を想定し、近隣住民や自治会の参加もあり、地域で訓練することができた。 ・緊急地震速報時のマニュアルの確認等を行った	年に2回昼夜想定で災害訓練を実施している。自治会と協力体制を築き地域全体で災害を考える機会を得ることができ、前回の課題であった「地域住民の参加」については課題をクリアした。地震、津波、台風等の災害マニュアルと備蓄3日分を整備している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・入居者との会話には、言葉の語尾に「…か」で終わるよう徹底周知し、入居者中心のケアが提供できるよう心掛けている。	パーソン・センタード・ケアの考え方を基にしたケアを忠実に実践している。職員は利用者の気持ちを大切に言葉かけ「～ですか?」「でしょうか?」を意識的に用い本人の残存能力を引き出し望む暮らしがおくれるよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・入居者の表情や行動を把握し、自己決定ができるよう声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・パーソンセンタードケアを徹底し無理強いせず本人のペースで過ごせるよう、全職員で理念を共有している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・外出の際は、ご本人様に洋服を選んでいただくよう声かけを行っている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・家庭菜園で季節ごとの野菜を収穫し調理するなど、楽しみながら食事を頂いている。 ・下膳等、自分でできる方は行ってもらっている。	献立は利用者の好みを取り入れ1週間分づつ職員が作成し3食共事業所で調理している。家庭菜園で採れた野菜や、差し入れも使い、職員が対面キッチンで調理する。調理中は匂いが広がり五感を刺激する。利用者は下ごしらえの手伝いや片付けを行う方もいる。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事摂取量や、水分量、排尿量、等を把握し栄養を管理している。また、個々に合わせた、形態で食事、トロミ等に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、口腔ケアへの声かけや介助等を行っている、かみ合わせや、入れ歯の調整、作成が必要な際は、訪問歯科へ情報提供し支援しています。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・入居者全員の排泄をチェックし、定時誘導ではなく本人にあった時間に排泄ができるよう声かけ誘導を行っている。	排泄チェック表を用い、職員は一人ひとりの排泄リズムやパターンを把握しトイレでの排泄を支援している。本人の様子を観察し、羞恥心に配慮したさりげない声かけに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・排便チェック表を活用し、便秘が続いている場合は、看護師へ連絡し必要に応じて内服等に対応している ・受診時に、情報提供を行っている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・入浴は基本的に2日に1回入っています、本人の希望があれば、いつでも入浴できる環境である。	2日に1度の個浴で支援している。本人の意思に沿い、入浴の希望があればいつでも対応できる環境にある。異性介助も本人へ確認を行い同意を得て実施することもあるがケアは同性介助を基本としている。清潔感のある真っ白なタオルで統一し、石鹸やクリーム等本人の希望の物を使用している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・個々の生活習慣(生活歴)等に合わせ、臨機応変に休息がとれるよう支援している。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服薬管理は、看護師がおこなっている、用途・容量使用方法等の変更があれば、看護師より申し送りがあるまた、内服薬が合わない場合は、専門科にて調整できるよう支援しています。	看護師が配薬を行い、個別にケースで管理している。服薬時は、職員間で誤薬や飲ませ忘れないよう声かけ確認を行い実施している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・個々の生活歴を参考に、掃除・洗濯・調理・畑等楽しみがもてるような支援を行っています。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・いつでも個々の希望で外出できる体制である。 ・食材の買い物等も一緒に出掛ける。 ・家族と外食に行く際は、必要に応じて車椅子車両にて送迎を行い支援している。	日常的にドライブや近隣の散歩を楽しんだり、日に何度も自宅往復する方への環境を整えている。テーマパークへ遠出したり、外食、花見等、季節の行事以外にも、ファストフード、個別の買い物等、様々な屋外支援を取り入れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・管理者がお小遣いを管理している、本人の希望があればいつでも使える環境である。 ・ジュースをかったり、近くのスーパーで買い物したり、できるだけ本人で支払い等をしてもらっている。 ・定期的に残高の確認を家族と行っている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話の利用はいつでも可能である ・入居者個々で、年賀状を作成し御家族へ送付している。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共用の空間は、できるだけ混乱をまねかないよう(家庭的な雰囲気)を大事にし、掲示物も極力掲げないように工夫しています。	家庭的な雰囲気を大切に、木目調で統一された家具と木目のテラスにテーブルセットを配置し、癒しと居心地のよい空間作りを工夫している。利用者はソファで寛いだり、テラスでお茶を楽しんだり、思い思いの場所で寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・庭には、テラスがあり四季を感じながらゆったり過ごせる空間がある。 ・気の合った仲間と過ごせるようソファの位置を工夫し、ゆったりできる環境である		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居者の使い慣れた家具の持ち込みは可能である また、居室にはTV、インターネット回線があり自由に使うことができる。	居室は冷暖房とベッド以外の持込みに制限はなく、テレビやタンス等を持ち込んでいる方や、壁に家族写真や作品、書字等を飾っている方も、馴染みの物を活かした本人らしい環境作りに取り組んでいる。洗面台が各居室にあり、歯磨きや整容のプライベートな場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・認知症の症状に合わせた、わかりやすい案内(トイレ等の)表示をし、自立した生活が過ごせるよう工夫している。		